

学問の都

花田小学校の歴史探検

吉田の町と羽田村

わたしたちの町「花田」は、江戸時代のころは羽田村といい、吉田（今の豊橋）の城下町の西に位置し、吉田の町と深いつながりをもって暮らしを営んでいました。

江戸時代の終わりごろ、豊橋地方には二百五十あまりの寺子屋がありました。そのうち羽田村には、三つの寺子屋がありました。

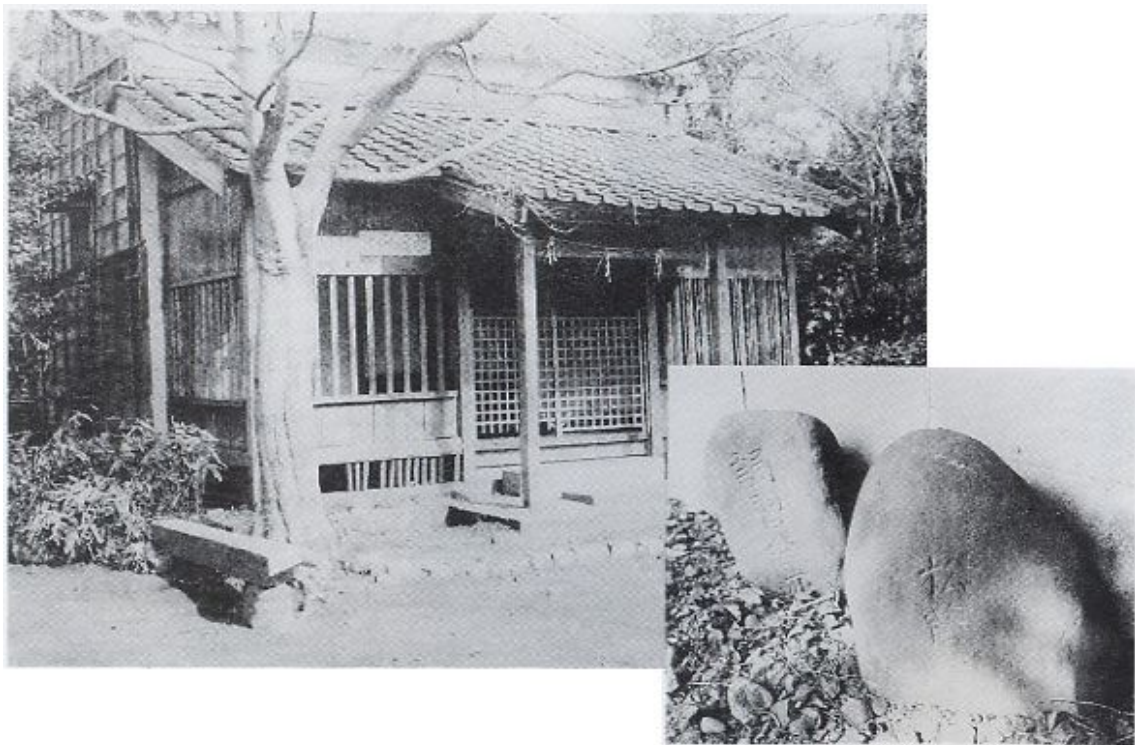
松蔭学舎と名づけられた寺子屋の先生は羽田八幡宮で神官をしていた羽田野敬雄という人でした。

浄寺院の寺子屋では、代々の住職が先生でした。ここは松蔭学舎ととなり合わせのところでした。

清源寺の寺子屋では、知順和尚が寺子屋を開いていました。

羽田文庫と羽田野敬雄

羽田文庫は、正式には羽田八幡宮文庫といい、一八四八年につくられた文庫で、今という図書館です。これに尽力したのが羽田野敬雄です。この文庫のそばに、本を読む建物「松蔭学舎」と講義をする「誦習学舎」がつけられました。花田小学校は、この誦習の精神を受け継ぐ学校です。



写真上：松蔭学舎と同跡碑・誦習舎跡碑

写真左：羽田野敬雄翁

「花田の人と風土」創立130記念誌より
花田小学校 高橋 淑